

とっとり農業会議情報

第30号
発行:平成25年 3月28日
編集:鳥取県農業会議

主 内 容

- ◇ 市町村農業委員会会長・農業委員会会長協議会合同会議を開催（2月22日）・・・ 2頁
- ◇ 鳥取県稲作経営者会議定期総会の開催（3月1日）・・・ 2頁
- ◇ 鳥取県農業法人協会通常総会及び研修会の開催（3月6日）・・・ 2頁
- ◇ 「農委だより」全国コンクールで日南町の農委だよりが全国会長賞を受賞、
「全国農業新聞普及」で琴浦町が優秀農業委員会表彰・・・ 2頁
- ◇ 農政対策ニュース平成24年度「農地白書」（総集編）の主な課題と取組方向＜抜粋＞・・・ 3頁
- ◇ 鳥取県農業者年金連盟研修会を開催（3月14日）・・・ 4頁
- ◇ 市町村農業委員会事務局長会議(マネジメントセミナー)を開催（2月1日）・・・ 4頁

「農地白書」公表シンポジウムを鳥取市で開催(3月27日)

～ 持続可能な農地の姿を考える ～

鳥取県農業委員会系統組織（市町村農業委員会・鳥取県農業会議）は3月27日、鳥取市の「白兔会館」で「農地白書」公表シンポジウムを開催、今回初めて作成した市町村版「農地白書」を公表するとともに、市町村農業委員会会長ら関係者およそ50名が参加して「農地白書」からみえてくる特徴点や課題などについて報告や意見交換が行われた。



この公表シンポジウムは、全市町村が今月作成した市町村版「農地白書」について、代表して三朝町農業委員会会長ら4名がそれぞれの白書の特徴や課題などを報告した。

続いて、全市町村の「農地白書」の主な項目をまとめた農地白書の「鳥取県全農業委員会総集編」（3頁の農政対策ニュース参照）を基に、「持続的な農地の姿を考える」をテーマに意見交換が行われ、川上会長をコーディネーターに6名のパネラーらで意見交換。農地が持つ産出力や多面的機能の価値や農地利用の促進、農業委員会組織などについてパネラーからそれぞれの観点から活発な意見が交わされ、参加者らもメモを取るなど熱心に聴き入っていた。

鳥取県農業会議第86回通常総会を開催(3月27日)

鳥取県農業会議（川上一郎会長）の第86回通常総会が3月27日、鳥取市の「白兔会館」で開催され、平成24年度一般会計の補正予算及び平成25年度事業計画及び歳入歳出予算などを協議、原案どおり決定した。

農業委員会会長会議、県農委会長協議会合同研修会を開催(2月22日)

鳥取県農業会議(川上一郎会長)と鳥取県農業委員会会長協議会(会長・藪内明境港市農業委員会会長)は2月22日、三朝町の「渓泉閣」で市町村農業委員会会長を対象に「農業委員会における課題とその取り組みについて」をテーマに意見交換会を開催した。

合同研修会では、まず県農林水産部経営支援課課長補佐の森井春孝氏から①荒廃農地に関する調査及び利用状況調査について②農地法第3条の下限面積(別段の面積)の設定について一の農業委員会が取り組んでいかなければならない課題について問題提起があり、意見交換が行われた。

鳥取県稲作経営者会議定期総会の開催(3月1日)

鳥取県稲作経営者会議(藪内孝博会長)は3月1日、湯梨浜町の水明荘で定期総会を開催し、提案された平成24年度事業報告及び収支決算や平成25年度事業計画及び収支予算などの議案をすべて可決承認した。

鳥取県農業法人協会通常総会及び研修会の開催(3月11日)

鳥取県農業法人協会は3月11日、倉吉市の倉吉シティホテルで定期総会及び研修会を開催し、役員改選が行われて会長に藤井一良((有)真栄農産、再任)、副会長に山崎俊宏((有)みどり農産、新任)を選出した。

総会後の研修では、広島県農業法人協会の吉弘昌昭会長(農事組合法人ファーム・おだ代表理事)が「地域農業を守る集落営農の取り組みについて」と題して講演した。吉弘会長は同法人で、昨年から取り組み始めた米粉パンの製造を紹介。「米粉用米の栽培・加工利用は荒廃地の発生防止・復元に役立っている。また、パン工房での米粉パンの製造・販売が住みよく楽しく明るい地域づくりにつながっている」と話した。

続いて、鳥取県産業振興機構の勝原公一企画推進員が「農業の6次産業化の取り組みについて」と題して講演。県内の取り組み事例を挙げながら、国や県が実施する6次産業化推進に関する事業を紹介した。出席者はメモを取りながら熱心に話を聞いていた。

「農委だより」全国コンクールで日南町の農委だよりが全国会長賞を受賞、 「全国農業新聞普及」で琴浦町が優秀農業委員会表彰

第19回「農業委員会だより」全国コンクールで、日南町農業委員会の農業委員会だより「いなほ」が全国農業会議所会長賞を受章した。また、全国農業新聞の普及優秀農業委員会や功労者などを表彰する平成24年度「全国農業新聞普及優秀農業委員会表彰」で、鳥取県からは琴浦町農業委員会が表彰される。

表彰は、4月10日に東京都・「椿山荘」で開かれる「平成25年度全国情報会議」でそれぞれの農業委員会に授与される。

農政対策ニュース

平成24年度「農地白書」(総集編)の主な課題と取組方向<抜粋>

第1部 農地資源の公共性【視点・論点】

①「食料供給機能」の課題と取組方向

- 米は日本の基礎的作物(基本的食料) *需要拡大の研究開発(小麦粉から米粉へ)
- 食料安全保障を担保する政策(T P P 対応)
- 農地ポテンシャルの発揮

②「就労創出機能」の課題と取組方向

- 就農は環境・社会の成立基盤(農業失業対策) *高齢者・主婦の働き場として重視
- 社会政策「日本型直接支払い」の拡充

③「環境保全機能」の課題と取組方向

- 地域資源循環(食物連鎖)の重要性の啓発
- 水張水田として維持(米の需要拡大)
- 中山間地域等直接支払制度、農地・水保全管理支払交付金制度の拡充

第2部 農地・労働生産性の【視点・論点】

①「農地を守る」の課題と取組方向

- 農地は貴重な有限資源 *農地パトロール協力体制整備 *農地遊休化「負」の連鎖の要因分析
*相互協力関係・維持による信頼の構築
- 非農地への積極的対応(地目変更等)
- データ照合システム化(地籍,固定資産台帳等)
- 農地中間保有制度の確立(食料安保の基本)

②「農地を活かす」の課題と取組方向

- 農地利用集積円滑化団体の関与のあり方
- 実状の把握分析と情報提供
- 農地情報に対する個人情報保護条例の見直し貸借市場(利用)は自由化し、ますます分裂傾向
- 農地取得の届出の徹底

③「労働の総量確保」の課題と取組方向

- 家・世帯は農業の基本的構成単位(家族労力減) *暮らしの中の農「半農半X」の位置づけ
*「先祖代々の土地に執着する形態」と「職業としての農業に執着する形態」
- 法人やリーダーに対するサポートが不可欠
- 援農休暇制度の創設検討(災害時、農繁期等) *育児・介護休暇に準ずる
- 「農業労働力補完調整システム」の構築 *外部調達, 互助(援農隊・労働銀行・作業受委託)

④「労働の質的改善」の課題と取組方向

- 「陽の3K」(自由、感動がある、稼げる)の啓発
- 労働基準法順守の指導体制確立
*農業労働の特殊性(季節性・作物成長に合わせた労働のため、労働時間のみ基準法適用除外)

鳥取県農業者年金連盟研修会を開催（3月14日）

鳥取県農業者年金連盟（井上繁美会長）は3月14日、湯梨浜町の「水明荘」で研修会を開催し、農業者年金の受給者の組織及び事務局職員ら56名の出席者が熱心に研修を受けた。

同研修会では鳥取県農業会議の浜本明敏事務局長が「最近の農業情勢と農業者年金加入推進への取り組みについて」と題して講演し、アベノミクスの三本の矢、成長戦略の5つの視点等を分かりやすく説明した。



続いて、医療法人根津整形外科医院の理事長 根津勝氏が「あなたの膝、大丈夫？」と題して講演。ロコモティブシンドローム（運動器症候群）について、会員らに「食生活に気をつけ、病気と上手く付き合い長生きして、これからも長い間農業者年金を受給していきましょう」と、ユーモアも含め楽しく語りかけた。

市町村農業委員会事務局長会議（マネジメントセミナー）を開催（2月1日）

鳥取県農業会議は、市町村農業委員会事務局長会議（マネジメントセミナー）を2月1日に湯梨浜町で開催し、改正された法令業務の適正執行及び市町村版「農地白書」の作成について協議した。

セミナーでは、法令業務の改正点として改正された①荒廃農地に関する調査及び利用状況調査について②農地法第3条の下限面積（別段の面積）の設定などの取り組み等について協議を行うとともに、市町村版「農地白書」の作成について意見交換が行われた。

< 常任会議員会議だより >

第10回常任会議員会議（平成25年 1月28日開催）

- 議 事 ・農地法第4条諮問答申 9件 4,246㎡
 ・農地法第5条諮問答申 19件 13,460㎡
 協議報告 ○サントリー(株)の井戸掘削事業に伴う関係法令について

第11回常任会議員会議（平成25年 2月28日開催）

- 議 事 ・農地法第4条諮問答申 11件 9,016㎡
 ・農地法第5条諮問答申 18件 28,722㎡
 協議報告 ○平成25年度農業委員会関係予算政府案等について

農業会議関係会議等予定（平成25年4月～5月）

4月10日(水) 全国情報会議<東京都>
 30日(火) 第1回常任会議<日本海新聞ホール>

5月28日(月) 第2回常任会議<日本海新聞ホール>
 30日(木) 全国農業委員会会長大会<東京都>